

当院における可搬型媒体運用の現状と課題

社会医療法人 康陽会 中嶋病院 放射線科 ○荒木 隆博

【はじめに】

当院は平成18年4月よりオーダーエントリーシステム、平成20年12月よりPACS、平成25年2月にRISを導入した。それまでは、他院との紹介や逆紹介において医用画像情報の提供はフィルムで行われていた。だが現在は、昨今の医用画像のデジタル化とともに、可搬型媒体(CD-Rなど)を用いた画像情報の提供が主流となっている。そのようなメディアを作成する装置は高価なものが多く、当院では導入に至っていない。そこで、PACSとRISを利用してコストを抑えた可搬型媒体運用を目指した。

【当院システム・使用機器】

HIS(日本事務器 MIRAIS) PACS(日立メディコ We-VIEW)
 RIS(東北メディサ Medisa Tron) 汎用プリンタ(Canon)
 メディアインポーター・エクスポーター(日立メディコ NV-1000,NV-Light)

【当院のインポート・エクスポート件数】

インポート・エクスポートともに、年々増加傾向にある。(Fig.1)

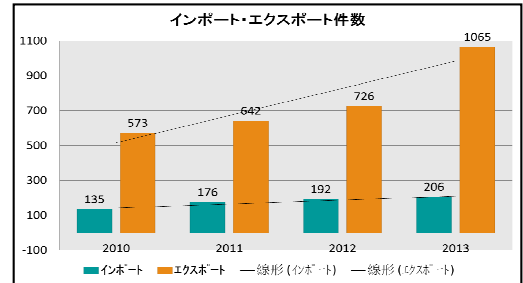


Fig.1 インポート・エクスポート件数

【当院のインポート時エラー内容】

Fig.2参照

【更新前後のシステム(PMC)】

Fig.3参照

【今後の検討項目】

- ・インポート時の患者情報入力(IRWFの実装)
- ・インポートエラーへの対応
- ・エクスポート時の画像選択(合意事項にそように)
- ・レーベルへの画像情報入力

【今後構築を目指したいシステム(PMI・PMC)】

Fig.4, Fig.5参照

【結語】

PACS導入当初は『患者に渡す医用画像媒体についての合意事項』にそぐわない場合があったり、CDレーベルがハンドメイドであったりと問題が山積していた。現在はPACSとRIS、簡便なプログラミングを利用してオートメーション化された低コストな可搬型媒体運用が構築できたとと言える。だが、他院からのメディアのDICOM規格違反や合意事項違反、当院PACSとの適合性、IHE統合プロファイルIRWFの実装など、まだ課題が残っている。このような問題の解決方法の一つに『宮城における患者に渡す医用画像媒体についての合意事項』の策定などの、共通基本ポリシーを設ける必要もあると考える。また、今後予定しているPACS更新に合わせて、当院の抱える課題を解決できるシステムを構築していく所存である。

【参考文献・図書】

- 1) 池田龍二：これで解決!医用画像可搬媒体の取扱い
- 2) 日本放射線技術学会：放射線部門における情報システムの構築
- 3) 日本放射線技術学会 医療情報分科会：画像情報の画定に関するガイドライン Ver.2.1
- 4) 日本放射線技術学会 他：患者に渡す医用画像媒体についての合意事項

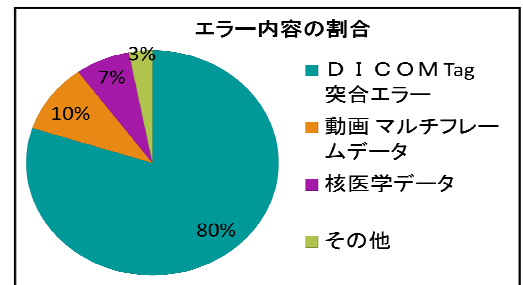


Fig.2 エラー割合

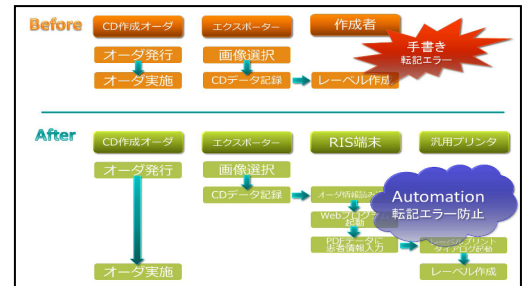


Fig.3 更新前後のシステム(PMC)

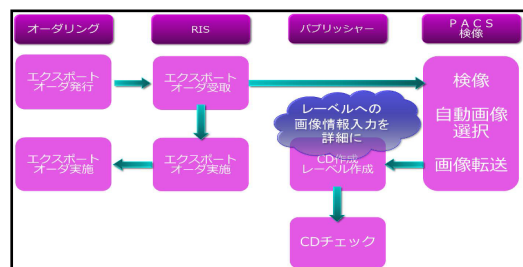


Fig.4 今後構築を目指したいシステム(PMI)

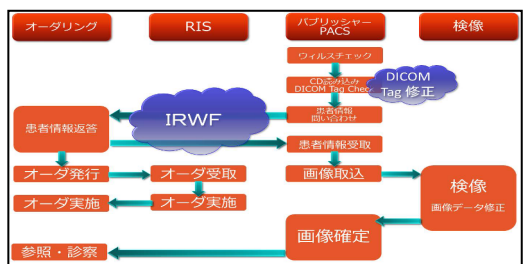


Fig.5 今後構築を目指したいシステム(PMC)